

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

アート&クラフト市場の活性化と文化観光のコラボによる文化芸術産業創生プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

京都府並びに京都府京都市、城陽市、南丹市、木津川市、船井郡京丹波町

3 地域再生計画の区域

京都府の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

京都には日本画、西洋画のみならず、工芸や現代アートに至るまで幅広く美術芸術系の人材育成機関が存在（美術・芸術系大学だけでも毎年約4千人の卒業生を輩出）し、京都の伝統工芸の近代化を支えてきた歴史があるが、最初から芸術活動で生活できる人はごくわずかしかいない状況であり（現代美術家の約8割が副業を持っており、その副業収入を制作に充てている人が約5割）、また、ビジネスとして扱う（購買者への紹介を担うとともに売れ出すまでのパトロン的存在でもある）ギャラリーが十分に存在しない（現代アートギャラリーの数：東京66軒、京都11軒）ためにそうした美大や芸大等の卒業生もギャラリーの多い首都圏へ流出（「美術家・写真家」の対全国構成比：首都圏21.4%、他政令都市12.5%）している。

また、明治以降の京都の芸術活動とともに近代化の道を歩んだ伝統工芸においても、日本人のライフスタイルの変化に伴い、着物や茶器など日本人の生活に溶け込んでいた日用品をはじめとする工芸品や日本画などの美術品が売れなくなる（裾野の縮小）とともに、特に高級品市場は著しく衰退している（伝統的工芸品の生産額（平成27年）：1,020億円。最盛期（昭和58年）比で81%減）。

結果として、京都におけるギャラリーは、小規模かつ少数となっており、市

場及び取扱量に関して東京一極集中が否めず(市場規模：東京 607 億円、京都 91 億円)、せっかく地域で育てた人材の流出が止められない状態となっていることに加え、ギャラリーと離れていることから、制作者が海外の購買者や観光的な観点で求められるニーズを肌で感じる機会が少なく、文化的背景や伝統的工芸の一大産業地である(全国指定品目数 232 のうち京都府 17(東京都と同数))ことを活かしてきていない。

一方、観光においては、世界有数の観光都市であり、昨今の訪日外国人客の増加により京都にも海外富裕層をはじめ多くの外国人が訪れることを受けて、近年ラグジュアリーホテルの立地が進んでいる(京都市内のラグジュアリーホテルの数 H19:5 件→R1:11 件)。京都には世界遺産を構成する寺社仏閣など歴史に裏付けられた財産が多数あるものの、富裕層はアートをはじめ特別な体験を求める傾向にあり、府域全体を見回しても、単なる観光を超えて特別な体験のできるコンテンツが非常に少ない状況にあるため、京都のラグジュアリーホテルに宿泊した外国人観光客の殆ど(ホテルからの聞き取りで約 8 割)が、日本での特別なアート体験を求めて、京都からわざわざ足を伸ばし香川県の直島(地中美術館)を訪れるなど、せっかく訪れた観光客のニーズを地域で受け止められず流出している現状がある。

加えて、これまでから周遊観光の促進に取り組んでいるものの、府北部、中部、南部など、各地域における周遊に止まりがちであり、府域全体での活性化を図るには、地域間相互に刺激を与え合い、交流を生み出す必要がある。

また、京都において特別な体験のできるコンテンツを生みだそうとしても、伝統工芸やアートをはじめ地域の歴史や文化等の地域資源を活かしながらプロデュースできる人材が不足しており、こうした役割を担うプロデューサーの育成があわせて必要となっている。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

明治 13 年に、三条実美が「日本最初京都画学校」と命名した日本初の公立絵画専門学校「京都府画学校(現京都市立芸術大学)」が創設されて以来、日本画だけでなく西洋画、工芸、現代アートに至るまで京都府に蓄積されてきた美術・芸術・工芸関係の人材育成の実践を活かし、数年後京都に移転する文化

庁との強い連携のもと、京都を、文化、芸術、観光をセットで味わうことができ、作り手やそれらを味わう人々が集まり交流する拠点都市としていくとともに、西日本、特に関西における様々な文化資源や工芸産業と観光のコラボが行われる圏域を形成していく。

具体的には、アート&クラフトを軸とした特別な体験のできる文化コンテンツの創造により、海外富裕層等呼び込み府域の周遊観光の振興を図るとともに、世界で注目を浴びている現代アートや伝統工芸品などの作家や職人と、ギャラリーや工房、バイヤーや購入者等が交流し刺激を与え合うアート&クラフトの一大流通市場を京都に形成することで、アート&クラフトを扱うギャラリーの京都への集積や、美大、芸大、京都府立陶工高等技術専門校等の卒業生や工芸職人等が京都府内で就業できる産業基盤を作り上げ、アート&クラフトを中心として観光分野との連携によりヒト・モノ・カネの流れを生み出す核を文化首都・京都に創造する。

2020 東京オリンピック・パラリンピックに向け京都の強みである「文化」を起爆剤として観光や産業との融合を図ることにより、文化の機運がますます盛り上がりを見せ、オリンピック直後にはアジア最大規模の上海アートフェアが行われるこのタイミングに合わせて取組をスタートすることで、アート&クラフトを核としたヒト・モノ・カネの動きを一気に加速させ、2025 年大阪・関西万博を見据えて関西全域で本事業を活かした地域の活性化を目指す。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2020 年度増加分 1 年目	2021 年度増加分 2 年目
本事業における作家、職人、アート&クラフトプロデューサーなどの育成数(人)	0	180	25
アートフェア等でのアート&クラフト商品の売上高(千円)	0	400,000	100,000
本事業におけるアート&クラフトを軸としたイベント等の参加者数	0	43,000	2,500

(人)			
-----	--	--	--

2022 年度増加分 3 年目	2023 年度増加分 4 年目	2024 年度増加分 5 年目	K P I 増加分 の累計
30	20	10	265
100,000	100,000	100,000	800,000
2,500	2,500	2,500	53,000

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

アート&クラフト市場の活性化と文化観光のコラボによる文化芸術産業創生事業

③ 事業の内容

◎ 「アート&クラフトのまち・きょうと」の形成

文化芸術と工芸を融合させた「京都国際アートフェア」の開催を核として芸術人材の育成・キャリアアップや活躍できる場の創出により、アート&クラフトに関するヒト・モノ・カネが動く拠点都市を形成する。

また、日本画や伝統工芸などの伝統的な技法による芸術との融合や文化財を活かした観光とのコラボレーションにより地域全体を「文化芸術と工芸を体感できる観光都市」として楽しめるものとしつつ、新たな需要に応えた工芸品の生産などにより来訪者への満足度を更に高めるべく深化させる。

<芸術人材の育成・キャリアアップ>

美術大学や芸術大学などの人材育成機関と連携しつつキャリアアップ支援や支援者等との交流、地域でプロデュースする人材の育成等を通じて芸術人材の育成・キャリアアップを図る。

○支援者等との交流によるキャリアアップ支援

若手作家とコレクターやギャラリー等の美術・芸術関係者との出会いの場を創出し、作家がアート&クラフト市場で評価される仕組みを構築

○アート分野を担うプロデューサーの育成

アートフェア運営に若手を起用し、アート&クラフトのプロデューサーとなる人材を育成

○海外連携による職人の商品開発等のスキルアップ支援

上海「KYOTO HOUSE」を設置運営する上海復星国際有限公司と連携し、主に中国富裕層市場への展開を想定した商談支援等により新商品・新素材開発等を支援

○未来志向のものづくり人材の発掘及び育成支援

伝統産業をはじめとしたものづくり人材のプラットフォーム運営を支援

<作家等が活躍できる場の創出> ※交付金事業終了後、民間の自立的な取組へ移行

○芸術家とコレクター等の交流による購入・支援環境の創出

オープンアトリエ・オープンファクトリーを通じて、コレクター等が作家の制作現場を訪れ、作家と交流することで、両者の距離を縮め、気軽な購入や支援がしやすい環境を創出

○京都におけるアート&クラフト市場の創出

京都をはじめ日本の一流ギャラリーが海外のギャラリーとコラボレーションして出展するアートフェアを開催し、作家等の発表・販売の場を創出

○美術系・芸術系大学のオープンキャンパスとのコラボレーション ※交付金事業外で実施

○アート&クラフト産業の京都への集積による拠点化（アート&クラフト取扱量の増加） ※交付金事業外で実施

○工芸関係産業の振興 ※交付金事業外で実施

○工芸等産地産業の支援

コレクター等との交流から生まれる新しい用途や製品の開発等の支援や、ニーズに応える技術の高度化に向けた生産環境の整備を支援

◎「アート&クラフトのまち」と連携した文化観光圏域の形成

アート&クラフトに関するヒト・モノ・カネの流れを起こすとともに、京都府を中心に文化を「来て・見て・楽しむ」文化体験観光圏域を作り出す

○アート&クラフトをテーマとした周遊観光の活性化

地域、市町村、DMO、金融機関等が一体となってアート&クラフトと観光のコラボにより新たな人の流れを創出

○アート&クラフトをテーマとしたインバウンド誘致

アートフェアの開催に合わせ、世界遺産や国宝となっている寺社など文化価値の高い建造物を会場とする京都ならではの特別な展覧会等アートイベントを開催。国内外の観光客がアート&クラフトを体験し、消費を楽しむ圏域を形成するとともに、この基盤を活かした特に欧米豪及び東アジアを対象にしたインバウンド誘致を推進

これらを通じて、各市町がこれまで取り組んできたアート&クラフトの実績をもとに、地域それぞれの取組から相互に刺激を受け合い、府域全体での周遊観光の促進を図るとともに、育成された人材の活躍の場を、都心部だけでなく自然に恵まれた府域にも創造することで、府域全体にアート&クラフトの拠点や市場を形成し、アート&クラフトを核とした文化芸術産業の府域全体での創生を図る。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

アートフェアは段階的な出展料の値上げと会場拡大による出展者増、協賛企業の拡大により、自立化を図る。

【官民協働】

行政、経済団体、文化関係団体、工芸の産地組合など多様な主体から

なる事業推進主体を核として、アート&クラフトを中心に観光とも連携して、ヒト・モノ・カネの流れを生み出す拠点を京都に形成するため、美術・芸術系人材の育成と京都におけるアート&クラフト市場創出、観光とのコラボレーションをそれぞれの役割分担のもと展開する。

【地域間連携】

京都府と京都市が連携して芸術人材の育成やスタートアップ、アート&クラフトにおける産業振興を支援するとともに、京都府と府内市町村が連携し、京都を訪れる購買者、観光客等への満足度向上や掘り起こされたニーズへの対応を支援することで、京都市内に集中する観光客の府域への波及を促進するとともに、産業振興も両立したヒト・モノ・カネの流れが起こる圏域づくりを図る。

【政策間連携】

文化財などをユニークベニューとして活用することで文化体験のできる観光としてコラボを図るほか、国内外の購買者や観光客と、作家や職人との交流を進めることで、アート&クラフトの人材育成とともに、新たな制作や意匠を伝統工芸産業の新サービス創出に繋げ、付加価値の高い市場形成・拡大と産業振興を両立させる。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

各広域連携自治体において、毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を地方創生担当部署が取りまとめる。

【外部組織の参画者】

各広域連携自治体において、有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

【検証結果の公表の方法】

各広域連携自治体において、必要に応じて地方版総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる。検証結果は毎年度、ホームページ等で公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 1,620,450 千円

⑧ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

※ 企業版ふるさと納税との併用による事業実施期間延長適用

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし。

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。